

楽楽 *rakulaku*


<http://www.asahikonsei.com/>

◆練習スケジュール

	月/日	会場	時間	備考
6月	15日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	18:00~ヴォイトレ (男声対象)
	22日(土)	//	//	
	29日(土)	中央公民館 306 音楽室	//	
7月	6日(土)	旭丘公民館	//	
	13日(土)	//	//	
	21日(日)	中央公民館 305 音楽室	//	
	27日(土)	旭丘公民館	//	
8月	3日(土)	//	//	
	10日(土)	//	//	
	24日(土)	//	//	
	31日(土)	//	//	
9月	7日(土)	瀬戸市文化センター	//	リハーサル
	8日(日)	第29回瀬戸合唱フェスティバル(本番 11:50頃) 詳細後日		
	14日(土)	旭丘公民館	19:00~21:00	
	22日(日)	//	//	
	29日(日)	//	//	

合唱祭

6月8日(土)稲沢市民会館にて開催された第52回合唱祭に参加しました。

『糸』・『見上げてごらん夜の星を』を演奏、全体合唱では『いつまでもいつまでも』を歌いました。

また、演奏後、稲沢市「Herbal Time 野風」にて打ち上げ会を行いました。

合唱祭の舞台も無事歌い終え、神谷先生の講評を伺った後、打ち上げ会場に集合。

和気あいあいの雰囲気の中、実行委員長の波多野ユキさんが、「来年の演奏会に向け、頑張っていこう!!」と挨拶し誓い合いました。

今回は久しぶりに神谷先生も参加して下さい(石川先生は他合唱団の伴奏があり残念ながら欠席)、大いに盛り上がりました。最後に再び“糸”を歌い、余韻が残る中解散しました。

各担当の方々ご苦労様でした。

(レクリエーション係)

◆技術委員会の報告

5月25日、団長・副団長を交えての拡大技術委員会が開かれ、まず年間の基本方針として次の4点に絞りました。

- ① 発声の基本に戻る。
- ② 次回演奏会の譜読みの徹底
- ③ 音色の統一(パートメンバーの再編成や新入団員の加入のため)
- ④ 「永訣の朝」の詩の読み込み → 以降、「アナリーゼ」と呼ぶ。

①・③に関して、現在の毛利先生ご夫婦によるボイトレの内容を検討し、まず、下記のように8月から実施してみます(7月までは永訣の譜読みに集中)。

1時間のボイトレを15分ほどの枠にし、少人数の発声練習をしていただきます。
(グループ分けはPLに一任、詳細は毛利先生に相談の上、お知らせします)
男声・女声 月に一回ずつ原則2回のボイトレになります。ただし、全ての団員が指導を受けられるように人数調整するために、自主練習になる定例練習の時間を使った2時間を月1回とする月もあります。
* 調整によっては人により受講回数も異なることもあり得ますが、ご了承ください。

↓

来年の演奏会の予算の関係もありますが、年内このボイトレ形態で試し、年が明けてからは次の段階へ入る計画もあります。

②に関しては、7月上旬には「永訣の朝」の譜読み終了、7月から年内にかけてはアカペラの復習、神谷先生のアレンジ曲の譜読み終了、及び2つのステージ(瀬戸合唱フェスティバル、尾張旭市民音楽祭)の練習が控えています。

③のアナリーゼはまず「楽楽」に掲載されている酒井さんの資料を読むことから始めて、いずれ、詩を全員で読み深める機会を作る予定です。

その他、以下の3点の提案及び問題提起があったので、技術委員会で実施に向け検討します。

1. 団員募集を目的としたロビーコンサート(愛知医大病院ロビーなど)

(ただし、次期演奏会の譜読みが大変なので、募集は演奏会の一年前までということにした方がいいかもしれない)

2. アカペラの予行練習を来年4月・5月辺りに瀬戸市内の教会で行いたい。

(無駄な力が抜けた いい響きを体感するいい機会になります)

3. 定例練習への集中力が低下している。

以前にも問題になっていましたが、練習開始時間になり指揮者が前に立っても、ピアノの前に座り発声開始の声をかけていても、おしゃべりや椅子に座ったままているなど、マナーの悪さが気になります。

和を大切に仲間と週一回の練習を楽しみたいのですが、だからこそ、積極的にマナーを、私たちの前向きな姿勢を練習に活かしていくために皆で声掛けをしていきましょう。

◆ 新入団員ご紹介 ◆

WELCOME 旭混声！！
6月より入団予定のお二方です。

- * 藤田邦江さん
- * 森ゆき子さん

♪パートは未定です。
♪プロフィール等はいずれ楽楽にて！

けんじっす。
ベートーベンのマネ～。



■ イベント情報 ■

★男声合唱団 東海メイプルクワイア 第56回定期演奏会

日時：2013年6月23日(日) 13:30開演
会場：愛知県芸術劇場 コンサートホール
チケット：全席自由 2,000円

※高田三郎生誕100年記念・ジュリア聖歌隊500年祭招待演奏帰国報告
※曲目：男性合唱組曲「水のいのち」、「典礼聖歌」他

★ピアチェーレ・マンマ コンサート vol. 7

日時：2013年7月30日(火) 18:45開演
会場：電気文化会館 ザ・コンサートホール
チケット：全席自由 3,000円

※ソプラノ：東山 紀美子 ・バイオリン：野添 弥麻美 ・ピアノ：水野 みか
※曲目：サマータイム、トルコマーチ、カッチーニのアヴェマリア他

★宮沢賢治が極楽浄土ではなく兜率天を妹トシの転生先に選んだのは？

日本では、阿弥陀信仰による極楽浄土よりも古くから信仰された浄土が、弥勒菩薩の弥勒浄土＝兜率天と言われており、又、弥勒菩薩は、天上と地上に二つの浄土をもつ仏だとされています。この天上浄土は、阿弥陀仏の極楽浄土に比べると、天上では低いレベルにあるといわれますが、そこに描かれるイメージは殆ど同じであり説話でも語られています。浄土往生の先としては、極楽と兜率天に大きく差をつけていたようには感じられず、その差はどこにあるかという、極楽に往生できれば、魂はそこでの無限の生を保証されるが、兜率天での生は四千歳（その一日は人間界の400年）とされ、そのため悪心があると、兜率天から地獄へ落ちることもあるとされています。

又、「く兜率の天の食」が「聖い資糧」をもたらすように」と願った至福を満たすものは、極楽往生の彼岸への「ゆききり」に求めず、兜率往生の「ゆき」（彼岸）と「戻る」（此岸）であったこと、「妹の女身のままの往生＝天女への転生」を願ったのではないかと考察する人もいます。

宮沢賢治は熱心に日蓮宗を信仰していました。日蓮宗で唱える「法華経」には、唱えることで弥勒菩薩の「兜率天浄土」へ行けると説かれているそうです。まさに賢治にとっての浄土は「兜率天」だったのでしょう。又、信仰としての利他心（人々への救い、等）が、「兜率の天の食」が、妹だけでなく、世の中の人すべてにもたらされるようにと賢治は願ったのでしょう。

参照文献『法華経』概論（佐倉哲）、「宮沢賢治「永訣の朝」における幾つかの疑問点（菅原誠）」、「日本人と死後世界（荒木睦彦）」

★宮沢賢治の音楽への関わりと作曲について

賢治が「農村指導者」として生活していた時代や、農学校で教師をしていた時代に盛んに音楽に関与していたことはあまり知られていません。次号で少し述べたいと思いますが、先月号で植村さんが編集後記で紹介された2曲について記載しておきます。2曲とも宮沢賢治の作詞・作曲によるものです。

星めぐりの歌

「星めぐりの歌」YOUTUBE アップロードサイト

<http://www.youtube.com/watch?v=HHNEhT2Ckck>

<http://www.youtube.com/watch?v=q0gQSKKjh9M>

「牧歌」YOUTUBE アップロードサイト

http://www.youtube.com/watch?v=AuBgt_psqvg

<http://www.youtube.com/watch?v=gPMiM8Ndfns>

Largo

牧歌

たねやまがはら
たねやまがはら

のくものながでか一つたくさ
のせだがのすすぎあさ

はみどごさ一がおいだ
か一ってでおぎおすれ

がわすれだるあめあふる
であめあふるあめあふる

Allegretto

ア あ か い め だ ま の さ く そ も
ン ド ロー メ タ の く も

り ひ ろ げ た わ し の つ ば た
は さ か な の く ち の か た

さち あ を い め だ まし の こ き いた
お ほ ぐ ま の あ し を き

ぬ ひ か り の へ び の と く
に い っ つ の ば し た と こ

ろ オ リク オ ン は た かい く う た へ
こ こ ま の ひ た い の う

ひ つ ゆ と し も と り を お と す て
は そ ら の め ぐ り の め と あ